

● 保育所・女性自立支援織物研修センター・KURATA PEPPER 訪問 8/22

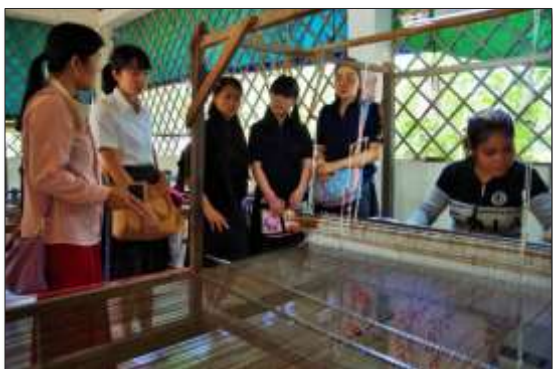


[プレイタトゥ保育所にて]

プレイタトゥ保育所を訪問

「幼い難民を考える会」（カンボジアの保育活動支援と女性自立支援を中心として活動している NGO）の関口さんに案内していただき、プノンペンから約2時間の場所にある「プレイタトゥ保育所」を訪問しました。郊外に出ると、プノンペンなどの都会とは全く違った風景が広がっています。

プレイタトゥ保育所では貧困家庭の子どもへの教育をしていますが、ガスも水道も通っていない園舎など、運営は厳しい状況にあります。生徒たちは、園児と一緒に元気に歌を歌ったりして楽しく過ごしました。この保育所で20年勤務しているジャン・マーチ先生にお話を伺いました。日本とはかけ離れた環境で子どもの教育に取り組んでいる現状を目の当たりにし、生徒たちは「幸せ」や「豊かさ」の定義を改めてじっくりと考え、自分の置かれた環境を見つめ直す機会となりました。



[カンボジアの伝統織物の技術を見学]

女性自立支援織物研修センターを訪問

保育所を後にしてから、女性自立支援織物研修センターを訪問しました。カンボジアでは昔から農閑期の合間に機織りを行い、絹紵（かすり）を主要な輸出品としていましたが、内戦によってその技術の伝承が難しくなり、機織り機なども失われてしまいました。

この研修センターでは、女性たちに伝統織物の技術を教えることで、誇りの持てる仕事を身に付けて経済的な収入を得られるような仕組みづくりを行っています。

ここでは、カンボジアの伝統織物を織っているところを見学させていただき、織り手さんにお話を伺いました。

ランチタイムには、関口さんに見学先で感じたことをお話ししたり、「幼い難民を考える会」についての質問をするなど、有意義な時間を過ごしました。



[自立支援織物センターにて]



↑ [KURATA PEPPER にて] ↓



KURATA PEPPER 訪問

午後は、カンボジアで胡椒の会社を立ち上げた倉田浩伸さんを訪問しました。

中世から60年代まで「世界一おいしい」と言われていたにもかかわらず、内戦により生産量が激減してしまったカンボジアの胡椒が、もう一度「世界一」と呼ばれるよう、自然農薬・自然肥料を使った伝統的な農法にこだわった胡椒の生産をされています。

倉田さんは、胡椒に焦点をあてながら、カンボジアの経済・地理・現代社会について教えてくださいました。また、「価値観の多様性」や「社会のカタチ～自然との共存とは何か～」が大切であるということについても話をしてくれました。

クメール伝統舞踊の見学

この日は、ストリートチルドレン就職支援レストランである「ROMDEN」で夕食をとった後、クメール伝統舞踊を観てリフレッシュしました。

プノンペンからシェムリアップへ移動 8/23



[プノンペンからシェムリアップまでは国内線で45分間かかります。]

Madam SACHIKO Angkor Cookies 訪問

「これからのカンボジアには、援助に頼らず自立できる仕組みが必要」という考えから、2004年に小島幸子氏が起業したクッキーの会社“Madam SACHIKO Angkor Cookies”を訪問しました。設立当初は女性スタッフ2名とオープン1台という小さなクッキー屋でしたが、現在では90人以上の従業員を擁するシェムリアップ屈指の名物土産店に成長しました。

今回はカンボジアの女性店長にお話を伺いましたが、カンボジアの復興に力を尽くしている日本人女性の存在を大変誇りに思いました。

